

# 大規模災害に備えて～助け合える地域づくりを～ 大災害、地域力で備えを

「大規模災害に備えて～助け合える地域づくりを～」をテーマにした社会貢献フォーラム(全日本社会貢献団体機構、岐阜新聞・ぎふチャン、全国地方新聞社連合会主催)が3日、岐阜市橋本町のじゅうろくプラザで開かれた。アルピニストの野口健さんの講演や、野口さんを交えた有識者4人によるフォーラムがあり、地域防災力の強化と社会貢献活動の可能性について考えた。



大規模災害に備えて、助け合える地域づくりを考えた社会貢献フォーラムin岐阜市橋本町、じゅうろくプラザ

## 講演

昨年4月、ネパールのヒマラヤに行った時に81年ぶりの地震に遭遇しました。ベースキャンプから村に下りれば助かると思い、懸命で下山したら、家がすべてつぶれていました。日本ではあまり報道されていない現地の状況を伝えようと思い、映像や写真を撮り続けました。同時に、ヒマラヤ震災基金を立ち上げました。帰国した1ヵ月後には1億円が集まり、安心して寝られる場所を、一家全員で住めるような大型テントを届けました。



高木朗義氏

## フォーラム

加藤 岐阜大学学生保安消防隊が行っている社会貢献活動について教えてください。

高木 実際に消防隊で活躍している2人の学生が活動内容を紹介します。加藤 「自分たちの大学は自分たちで守る」をスローガンに、学内や学外で防災のボランティア活動を行っている学生サークル団体です。隊内では学習活動として週1回のミーティングや勉強会、防災士の資格取得などを、隊外では地域の防災訓練、防災学習などに参加し、ボランティアをしています。活動を通して身に付けた力で、自分たちで企画し、イベントを運営、実施しています。



一川哲志氏

## 人の輪広げていく活動を野口氏 小さな「点」大きな「面」へ高木氏

野口 2日目は手にけがをしたときの応急処置の仕方を体験し、3日目は災害時の3日間の献立を考えた。加藤 「防災に関心を持ってほしい」という思いを持って、試してみようという「全員参加型の企画を行う」の3点を意識して企画しましたが、防災をより身近に感じてもらえたいと思います。



大野春光氏

## 社会貢献活動で「恩返し」大野氏 心をケアする臨床宗教師一川氏

加藤 県内での他の社会貢献活動を紹介してください。

一川 先々の不安や死への恐怖という心の痛みを和らげる役目を担う臨床宗教師が注目されています。大垣市には、お年寄りや終末期患者らが一服を楽しまながら臨床宗教師や医師と語り合う「カフェ・モンク」という喫茶店があります。その他にも規格外、余剰品などで販売できない食品を企業から引き取り、施設や個人に無償で提供する「フードバンク」という活動も広がっています。加藤 活動に参加して感じたこと、社会貢献活動への思いを教えてください。



加藤義久氏



加納一輝さん



佐藤衣莉さん

大野 寄付金は直接お渡しするのですが、その人たちの笑顔や苦悩話を聞くことで、顔が見えるコミニケーションが図れ、次への活動力になります。また、社会貢献活動としては、行政がやろうとしてもすぐにはできないことを、速やかな意思決定でタイムリリーな支援ができるメリットが業界団体にはあり、重要視されているということも認識しています。

高木 社会貢献活動は学校教育の中でも見直され、岐阜大学でも次世代の地域リーダーを育成するというプロگرامがあり、人材育成に欠かせない活動となつていきます。自ら行動する姿、挑戦する姿は見る人の心を動かし、大きな動きになります。最初は、ついでにという気持ちで、面とついでにという大きなムーブメントとなり、地域を創っていくと思います。

野口 富士山の清掃活動も最初は年間1000人ほどでしたが、16年目で7000人に広がりました。今では五合目以上のゴミはほとんどない状態です。活動を続けながら、人と人との輪をどう広げていくかが最大のテーマであると感じています。また、震災時はスピードが勝負。震災の前から意思決定ができるように準備しておくことが必要です。

加藤 社会貢献活動を通じて地域を変えることはできると思いますか。

大野 岐阜市の柳ヶ瀬に毎年防犯カメラを寄贈していますが、やり続けることで、明るく住みやすい街を作る一端を担えると思つています。

## 野口 健氏「一人ひとりができること」



ネパール地震や、熊本地震の支援について語る野口健氏

## 被災地をテントで支援

東北、ネパール、熊本の地震を経験して思うことは、発災から3日間自力で生き延びれば助かるということ。一家に1張りのテントと寝袋を備えているとよいと思つています。自然と接している子どもたちは、何かあったとき、生存できる生命力が自然と身に付いていると思つています。テント村もひとつの選択肢。新たな避難所の形として伝えていきたいです。

たいというメールが届き、熊本にテント村を作ることにしました。車中泊される方が多かったので、ベースキャンプのように、心身ともに休めるような場所を再現しようと思つた。雨風をしのぐだけでなく、仮設住宅ができるまでのつなぎ役として、次にどう気持ちをつなげていくか、どう楽しく過ごせるかを考えました。現地の益城町では、連日、専門家や国際医療関係者が視察に訪れましたが、驚いたのは日本の避難所は先進国の中でも対応が遅れているということ。世界に目を向ける国際基準の「スライム基準」というものがあり、避難民の人権を尊重し、配慮した支援を行っています。一人あたりのスペースは3.6平方メートルを確保する必要があります。

## パネリスト

- 野口 健氏(アルピニスト)
- 高木朗義氏(岐阜大学工学部教授)
- 大野春光氏(岐阜県遊技業協同組合理事長)
- 一川哲志氏(岐阜新聞社編集局論説委員長)

## 学生発表者

- 加納一輝さん(岐阜大学大学院 2年)
- 佐藤衣莉さん(岐阜大学 3年)

## コーディネーター

- 加藤義久氏(ぎふチャンアナウンサー)

# 全日本社会貢献団体機構は 未来に向けて平和で住みよい 社会づくりをめざしています。



全日本社会貢献団体機構は、全国のパチンコ・パチスロホール組合の連合会組織である全日本遊技事業協同組合連合会(全日遊連)を母体として2005年12月に設立された任意団体で、学識経験者、文化人、政財界関係者が参加し、平和で住みよい社会づくりに貢献する事業への助成や社会貢献活動の顕彰を主な活動としています。

私たちは、社会に役立ち必要とされる研究や事業、活動をサポート・応援しています。

## 助成事業

今日の社会に最も必要とされる研究や活動に対する助成事業は、当機構の根幹事業です。毎年、子どもの健全育成や東日本大震災の被災者を元気づける活動に対し、助成を行っています。

## ◆平成27年度助成事業(実績の一例)



- 「2015 第4回国際子ども文化芸術交流 junior Artist Festival」事業  
— 国際子ども文化芸術交流実行委員会 —
- 「海外林再生プロジェクト10ヵ年計画」事業  
— 公益財団法人オイスカ —
- 「佐賀県子育て応援の店「はぶ」活」事業  
— 佐賀県子育て応援の店事業「はぶ」実行委員会 —

## 顕彰事業

会員の社会貢献活動を顕彰し、今後一層の活動を期待して、年間で最も優れた社会貢献活動に「社会貢献大賞」を授与することとし、平成17年から実施しております。

- 第9回 社会貢献大賞  
「兵衛 贈り物」を中心とした贈答活動の推進」事業  
兵庫遊技業協同組合
- 第10回 社会貢献大賞  
「災害復興支援」事業  
広島遊技業協同組合
- 第11回 社会貢献大賞  
「周年記念「安全・安心とふくしの街づくり」事業  
和歌山遊技業協同組合

